

ごあいさつ

普照院 新住職 小田宗治

私は、今年の一月の檀信徒総会で次期正住職にご推挙いただき、先日総本山より普照院代表役員（住職）の辞令を公布されました。まことに光栄に存じますと共に、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

私達の普照院は故山崎義天僧正以後、長期間に渡り兼務住職の寺院でありました。この間、十分な寺院活動とは言い難く、檀信徒の皆様にご不便とご心配をおかけしてまいりました。

ご承知の通り、平成七年阪神・淡路大震災により本堂・庫裏等の大きな被害があり、大打撃を蒙りました。その復興、整備もなお道半ばの状況であります。今後、お寺の復興再建・整備と共に、本来の寺院活動に誠意をもって取り組んでいく覚悟でございます。ただ、それには偏えに檀信徒ご一同様のあたたかいご理解とご支援を頂かねば不可能なことであります。どうぞ宜しくお力添え、ご協力を心からお願い申し上げます。

いまだ年若く経験ありません。謙虚に、師僧及び宗内ご寺院皆様のご指導を仰ぎつつ、檀信徒ご一同様の期待に応えられますよう、身命を惜しまず、生涯を普照院と共に歩みたいと思います。



小田 宗治（おだ そうじ）

昭和 45 年、明石市生まれ。平成 7 年、四天王寺国際仏教大学文学部仏教学科卒。10 年間の社会人経験を経て、薬仙寺住職後藤俊雄に就き平成 16 年 2 月得度及び僧籍編入。その後平成 16 年 4 月より、時宗総本山清浄光寺（通称；遊行寺）にて在勘修行並びに時宗修学林にて修学。平成 17 年 3 月両課程を修了。平成 18 年 3 月に時宗傳宗傳戒加行を終了し、権少僧都補任拝命。

（裏面 編集後記に続きます。）

〔編集後記〕

今回、普照院により親しみを感じていただくために、寺報という形で寺の情報、行事、連絡等を不定期ではありますが発信していくことにしました。

そもそもお寺というものは地域社会の最小単位である「家族」の次に小さい単位であり、その中でいろいろな情報交換をする場所でもあると思います。最近では隣近所の方の顔も分からない時代で、世の中の情報があふれているのに、実は自分の身近な情報が少ないことに気づけなくなってしまっています。この寺報を読むことによって、そういった身近な情報を皆様で相互交換し、あわせて寺に親しみを持っていただければ、またそういったものにしていけたらと思います。

ちなみにこの寺報の名称は「不動心」とさせていただきます。私が初めて普照院の扉を開けた時、本堂の阿弥陀三尊はもちろんなのですが、その脇にある「不動明王」像がすごく感慨深く目に焼きつきました。

その不動明王について

【釈迦が成道の修業の末、悟りを開くために「我、悟りを開くまではこの場を立たず」と決心して菩提樹の下に座した時、世界中の魔王が釈迦を挫折させようと押し寄せたところ、釈迦は穏やかな表情のまま降魔の印を静かに結び、魔王群をたちまちに超力で降伏したと伝えられるが、不動明王はその際の釈迦の内証を表現した姿であるとも伝えられる。穏やかで慈しみ溢れる釈迦も、心の中は護法の決意を秘めた鬼の覚悟であったというものである。】

と、あります。

私もこのたび普照院の住職を拝命させていただき、このお寺を再興させるために「不動心」で立ち向かうことを表現させていただきました。次号も楽しみにお待ちしております。